

令和 2 年度 大阪府在宅医療移行支援事業（在宅医療普及促進事業）
アンケート結果

日時：令和 3 年 2 月 2 5 日（木） 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0

場所：泉大津市医師会 4F 研修室

泉大津市総合福祉センター 3F 第一会議室

講演：地域で ACP をすすめるために～コロナ禍の今だからこそ考えよう～

講師 仏教大学保健医療技術学部看護学科 准教授 濱吉美穂 氏

講演参加者 15 名

アンケート回収 15 (100 %)

問 1 . 職種

在宅医	2
訪問看護師	2
介護支援専門員	5
CSW	1
その他	5

その他：薬剤師 2 名、MSW 1 名、訪問介護員 2 名

問 2 . ACP について理解できましたか

理解できた	14
どちらともいえない	1
理解できなかった	0
未記入	0

問 3 . みなさんの業務の中で ACP を実践していますか。

※下記の 4 つのうち該当するもの 1 つに○をつけてください。

実践していない	1
実践していないが今後実践してみようと思う	9
実践している	6
コロナ禍を機に実践を始めた	0
未記入	1

問 4 . 問 3 . の質問で「実践している」、「コロナ禍を機に実践を始めた」に○をつけた方へ

(1) ACP をどのように実践していますか。

【時期：いつ、どんな時に】

・基本情報やアセスメント等。又、経過支援記録を書く時に情報収集の時に意識しています。
・看取り介護始める時。転居の時（自宅→施設、長年住み慣れた場所→新しい場所）
・病名により、診断名により。又一人暮らし。
・導入期から少しずつ、本人とご家族との考えを聞いています。
・在宅移行時
・医療相談をうけている時

【内容：話し合いの内容。どんなことを聞いているのか。】

・今の所、込み入った話し合いはしたことない。
・どこで最期を迎えたいか。誰と暮らしたいか。何を優先するか（痛み等）。持って行くもの、行かないもの。
・治療内容やその他家族への思い。
・何かあった時どうしようと考えていますか？など曖昧な問いで自由に表現してもらうようにしています。すぐに最期のことを考えられない状況かどうかの指標もしています。
・療養場所の選択
・患者と本人が今の状況をどのように考えているのか、本人がどうしたいか、家族がどうしたいか（子供も含め親兄弟、夫婦等）

(2) ACP を実践されていて困ったことや課題があると感じることがありますか。

ある：8 ない：0 未記入：7

【困ったこと・課題】

・皆様の家には、プライドや、人間関係で人には言えない。ナイーブな部分、デリカシーな感情がそう簡単に話せないという所で大きな課題があると感じる。
・今の時点ではない。家族と本人との意見が合わない時は実施していない（できない）逆にやっておいてよかったと思える事の方が多い。
・まずは信頼関係を深めることで ACP が出来ると思いますが、このコロナの中で信頼関係を築くことが難しいと日々感じています。
・訪問看護の場合、患者様との関りがかなり状態が悪くなってからしか出来ない短い期間での信頼関係作りなど、「これで良かったのかな」と思うことが多いです。
・今、エンドオブケアのことや、ACP について学んでいます。利用者さんやご家族の方が最後まで人生を全うする支援をすることが課題と考えています。後、人生会議で本音や感情を話し合うファシリテーションが大事と考えます。
・切り出し方
・病状の理解が本人が乏しい時。本人が病状を理解していてもむちゃくちゃ前向きすぎる時。進めていく中で方向性に迷うが今は傾聴している。
・認知症の方「そんなこと言ってない」と発言がある可能性もあるかと思う。

以上